



2026年6月1日

各 位

会 社 名 大 阪 有 機 化 学 工 業 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 藤 昌 幸  
(コード番号：4187 東証プライム市場)  
問 合 せ 先 取 締 役 常 務 執 行 役 員 管 理 本 部 長 本 田 宗 一  
TEL 06-6264-5071(代表)

### 資本業務提携に関するお知らせ

当社は、株式会社三宝化学研究所(以下「三宝化学」との間で、資本業務提携を行うことについて本日合意いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 資本業務提携の目的および背景

近年、半導体・電子材料分野を中心に、材料に対する高度化・高純度化の要求は一層高まっており、これに伴い安定供給体制および品質保証体制の重要性も増しています。このような事業環境の変化を受け、材料メーカーには、1社単独での技術深化にとどまらず、強みの異なる技術基盤を柔軟に組み合わせることで、開発スピードの向上や対応可能領域を拡張していくことが求められています。

当社は、こうした市場環境を中長期的な成長機会と捉え、企業価値の持続的向上を目的として、三宝化学との資本業務提携を行うことを決定しました。

当社は、特殊アクリル酸エステルをキーマテリアルとし、創業以来培ってきた高度な蒸留技術を基盤とした高純度・高品質材料を差別化価値とし、先端分野を含む多様な市場において社会に不可欠な材料を提供してきました。また、中期経営計画「Progress & Development 2030」に基づき、中量実験室建設や約80億円を投じた生産設備の稼働を通じて、先端半導体用材料の開発・生産体制を強化しています。さらに、2025年12月26日に公表した酒田工場への新規設備建設計画をはじめ、金沢・酒田工場の2拠点生産体制による安定供給体制構築と高純度化技術の更なる高度化を推進しています。

他方で、三宝化学は、1950年の創業以来、有機合成をコア技術として成長を続けてきた化学メーカーであり、電子材料、表示材料、医農薬分野向けの高付加価値有機化合物を主力製品としています。高度な不純物・金属管理技術に加え、迅速な量産立ち上げ能力を強みとし、4工場体制による安定供給および強固な品質保証体制を背景に、先端材料分野における多様な顧客ニーズに柔軟かつスピーディーに対応してきました。

両社は、半導体・電子材料分野を中心とした共通の事業領域および高純度化・高品質管理という技術的な親和性を有しつつ、注力材料の重複が少ない相互補完的な関係にあります。

本提携を通じて、両社のコア技術および開発・製造基盤を有機的に融合させることで、先端材料分野における競争力強化と持続的な成長の実現を目指してまいります。

## 2. 資本業務提携の内容

### (1)資本提携の概要

- ・当社は、三宝化学の発行済株式のうち、50,204株(議決権割合 33.8%) を2026年6月1日に取得いたします。
- ・取得金額は非開示としております。

### (2)業務提携の方向性

- ・半導体向けフォトレジスト原料および関連材料の共同開発
- ・半導体向けフォトレジストにおける原料モノマー、感光材、溶剤を一体で最適化した材料設計
- ・高純度化・金属管理技術の高度化に向けた技術連携
- ・開発スピードおよび技術完成度の飛躍的向上

## 3. 業務提携による主なシナジー

- ・両社は得意とする分子骨格や技術の方向性が異なっており、本提携を通じた技術融合により、対応可能な技術領域の多様化が期待されます。
- ・高純度化という共通の強みを持ちながら、両社の得意とする製品形態が液体・粉体と異なることから、相互の知見を取り込むことで、精製・品質管理技術のさらなる高度化が可能となります。
- ・半導体市場やディスプレイ市場等の共通市場を有しつつ異なる製品群を展開していることから、顧客提案力の向上を通じて、新たな市場機会の創出が見込まれます。

## 4. 株式会社三宝化学研究所の概要

名称	株式会社三宝化学研究所
所在地	大阪府堺市堺区神南辺町1丁31番地
代表者氏名	代表取締役社長 藤岡 雅太
事業内容	半導体材料、表示材料、高機能材料、医農薬原料に関する化学製品、化学薬品の製造および販売
資本金	9,600万円
設立年月日	1952年11月10日

## 5. 今後の見通し

本資本業務提携による当社の2026年11月期業績への影響は、現時点では軽微と見込んでおります。今後開示すべき事象が発生した場合は速やかにお知らせいたします。

以上